

2024年(令和6年)8月25日 日曜日

大分學のすすめ

大分学研究会

毎年、隔月でお会いする「豊の国商人塾」の塾生は、郷土愛にあふれる人たちがばかりである。それぞれ住まいの地域自慢は聞かせてもらうが、県内の他地域の話ほとんど出てこない。それもそのはず、8藩7領の小藩分立のおかげで、小さな世界のつながりの中で豊かな歴史や文化が育まれ、さらに磨きがかけられている。地域ごとに風土が出来上がっているのである。

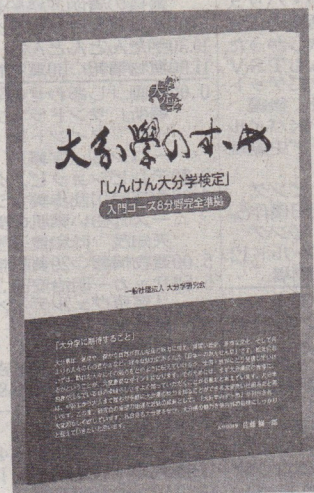
企業では、商品やサービスのブランドをデザインする。最近では、地域間でもさまざまな競争が繰り広げられるようになり、地域ブランドとなる個性・アイデンティティを伝える取り組みが始まるようになった。地域のアイデンティティは国内のみならず、世界の人たちに伝えるためには大分のブランドづくりが欠かせない。地域ブランドを構成するのは、大分の多様な資源ということになる。

多様な資源がブランド

本書では資源の一つ一つを紹介している。六郷満山文化の広がる宇佐神宮・国東半島は日本の宗教観の原点ともいえる神仏習合の始まりの地である。大友宗麟により大分全体が栄え、江戸時代の小藩分立によって固有の地域性を創出してきた歴史もある。広瀬淡窓や福沢諭吉ら多様な人材を輩出し、自然景観や環境にも恵まれている。県内の源泉総数は5090におよび、湧出量も含め日本一というのはおんせん県たるゆえんだ。他にも、磨崖仏、芸術、方言、食、産業・地域資源、スポーツ・芸能の記述は分かりやすく、大分は豊かな資源の集合体であることが分かる。

地域の姿を共に学び、「しんけん大分学検定」にチャレンジすることで、世界中の人たちと共有できるアンバサダー(大分大使)を目指してほしい。自らのアイデンティティを語る人は、自身のつながり・ネットワークを広げることが出来る。本書には、大分の隅々までを照らす魅力が満載されている。まずは手に取って地域全体のことが分かり始めると、その先の大分の未来が見えてくるに違いない。

(大分学研究会・5500円)



評者 佐々木茂(東洋大国際観光学部教授)